

シオカラトンボ



交尾中のペア(上がオスで下がメス いずれも成熟した個体)

【体長】 49～60mm

【特徴】 オスは成熟すると粉を吹き青白くなります。メスは麦わら色をしています。なお、オスも未成熟のときはメスのような麦わら色をしています。

【見られる場所】 いろいろな水辺で見られますが、特に浅い水辺(レンコン田・田んぼ・ビオトープなど)でよく見られます。産卵は水辺の植物や泥に、飛びながら腹の先を打ちつけて卵を産みます。産卵はしばしば、オスがメスの上を飛んでメスを見守りながら行われます。

【見られる時期】 5～10月頃

【名前の由来】 「塩辛トンボ」の意味。オスは成熟すると、粉を吹き青白くなり、いかにも塩辛そうなので、この名がつけました。メスは麦わら色をしていることから「ムギワラトンボ」と呼ばれることがあります。

コフキトンボ



なわばりをみはるオス(成熟した個体)

【体長】 38～48mm

【特徴】 シオカラトンボを一回り小さくしたようなトンボです。成熟すると、オス・メスともに粉を吹き青白くなります(オスとメスで同じ体色をしています)。

【見られる場所】 水路などの少し水深がある場所を好みます。産卵は水面や水辺の植物に、飛びながら腹の先を打ちつけて卵を産みます。

【見られる時期】 5～9月頃

【名前の由来】 「粉吹きトンボ」の意味。成熟すると青白い粉を吹くことに由来します。